

# 令和元年度農林水産技術総合センター 試験研究課題の外部評価結果

## 【目次】

農業分野	事前評価	1 課題	・・・ 1
------	------	------	-------

# 農業分野 事前評価

## 1 タマネギべと病の一次伝染源を中心とした防除体系の確立

### 【評価及びその理由】

- ・ 県のブランド農産物である「淡路島たまねぎ」の生産現場が抱えている病害問題に応える必要かつ重要な研究課題である。
- ・ 特産品として全国的に有名な「淡路島たまねぎ」にとって、タマネギべと病の被害は大きなものであり、当該研究により防除体系を確立する必要性は高い。
- ・ 大生産地でのタマネギべと病の発生は、生産者の経済的損失につながるとともに、流通量を通じた価格の高騰に直結することから、早急に防除体系の確立が求められる。
- ・ 平成28年度はタマネギ出荷量が約20%低下している。今後はそれ以上の被害も想定されるため、研究の必要性が高いことは明らかである。
- ・ タマネギべと病の一次伝染源対策は予防的意味で重要であるため、この課題は必要性が高い。
- ・ 現状の対策である罹病株の抜き取りや薬剤防除の徹底は、発病してからの対策であるが、発病前の対策である一次伝染源対策は、農家の負担軽減のために必要である。
- ・ 従来から用いられている石灰窒素や化学合成農薬の使用方法の改善を中心に研究を進めるため、環境への影響も少ないと考えられ、効率的な研究であると認められる。
- ・ タマネギべと病の被害を受けた佐賀県との共同研究により、様々な環境や事例を効率的に研究することが可能だと思われる。
- ・ 他機関との共同研究体制による本研究課題への取り組みも評価できる。
- ・ 防除技術の開発により、生産拡大や環境創造型農業の拡大が期待できる。このような研究は、県産農作物に対する消費者の安心感にもつながるものであり、有効性があると思われる。
- ・ この病気に対して、湛水の効果はすでに明らかになっており、他の肥料や薬剤もそれぞれ効果があることがわかっている。これらをシステムティックに組み合わせれば、有効な技術として現場で使えると思われる。

- ・平成 28 年産においては、4 月以降の 3 度の強風のため、ゴールデンウィーク前と後では圃場の状況が一変した。一次伝染源低減の対策も重要であるが、タマネギベと病菌の根絶がない限り突発的に大発生する可能性がある。そのため、二次伝染対策として、発生しやすい気象条件の察知により予防警報を発し、臨機防除に素早く対応できる体制の構築も大事であると考ええる。

## 【アドバイス】

- ・「淡路島たまねぎ」の安定生産・供給は、近郊の消費者の信頼確保および生産拡大につながる重要課題であるので、本研究計画が順調に進むことを期待する。
- ・今後のタマネギベと病の発生の程度によっては、令和 4 年度（3 年目）を待つことなく令和 3 年度（2 年目）にもある程度の成果を出して、被害の減少に貢献していただきたい。
- ・共同研究のコンソーシアムを組む機関との連携により、一次伝染源対策のメニュー化ができるよう研究に取り組んでいただきたい。
- ・技術を早期に開発・体系化するとともに、その広報にも努めてもらいたい。
- ・本課題は、タマネギベと病の総合的防除技術の開発を目指すものである。しかし、より大きな成果につなげるためには、淡路島のたまねぎ農家全体が同時に防除技術を取り入れる必要がある。
- ・一次伝染源対策は農薬使用削減につながる技術として期待されることから、環境創造型農業との整合性を図られたい。
- ・平成 28 年 4 月以降の気象データを基に、突発的な発生に対応するシミュレーションも検討してはどうか。
- ・共同研究のコンソーシアムを組むにあたっては、研究全体としてバランスの取れた課題構成にするよう配慮いただきたい。
- ・共同研究のコンソーシアム内での情報共有を図り、効率的・効果的な試験推進体制を構築していただきたい。
- ・生産者などにとって出荷量の確保は重要であり、今後、このような研究を通して農業参入の意欲を高める可能性もある。農業の発展のためには、現在分かっている病気のリスクを防ぐ技術開発は必要だと思われる。